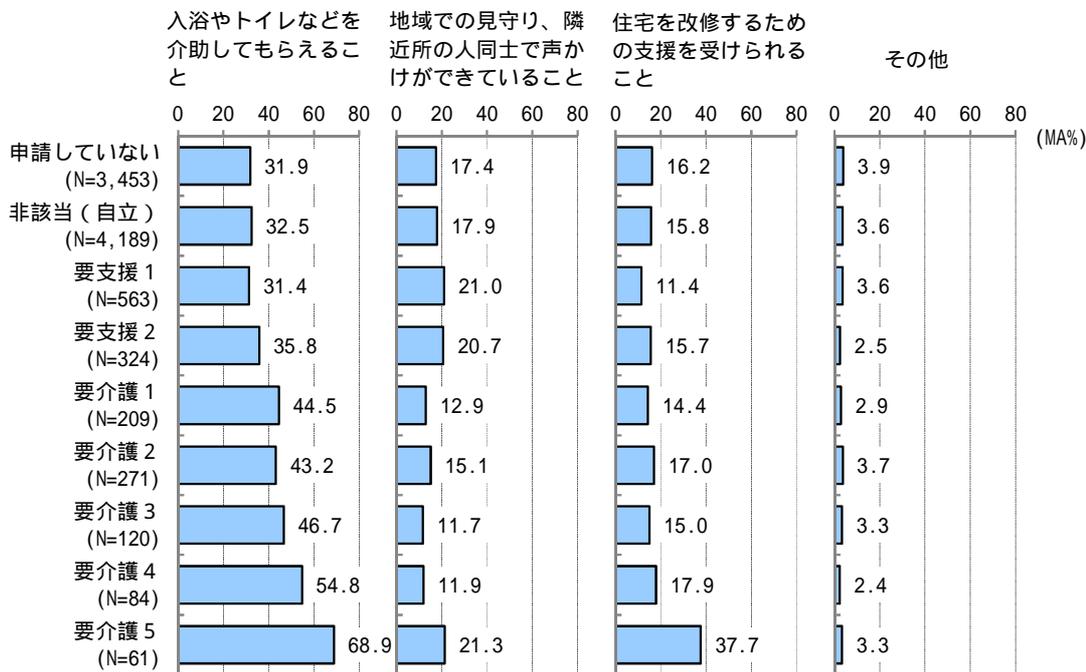
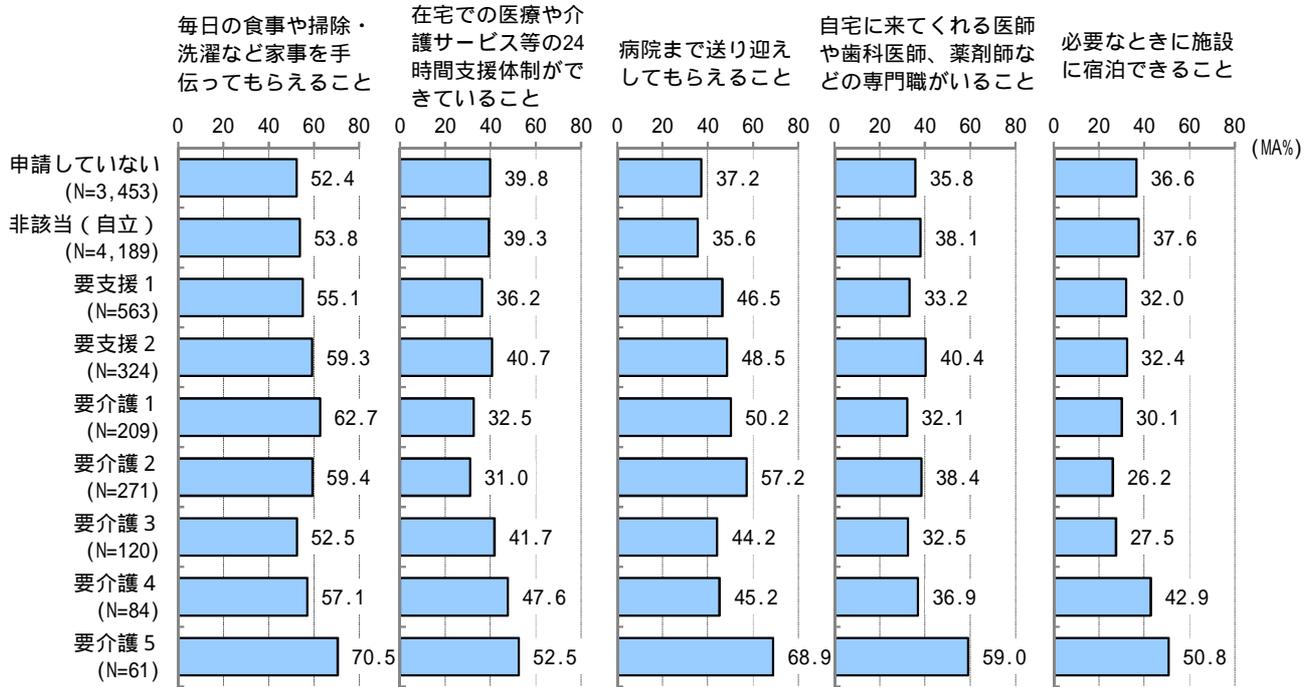


介護度別でみると、「入浴やトイレなどを介助してもらえること」の回答割合は重度になるほど高くなっている。(図29-b)

【図29-b 在宅生活継続のために必要な支援（介護度別）】



(6) 現在の暮らしに対する考え

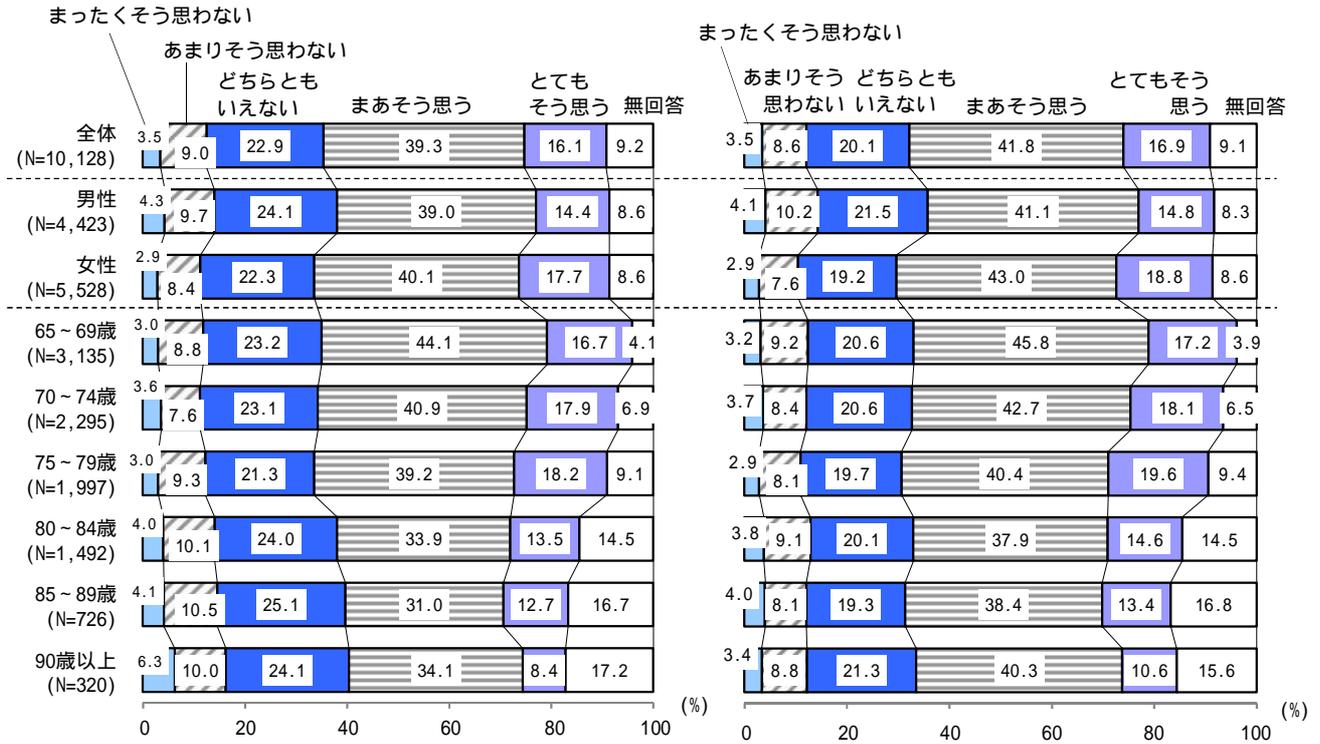
問30 生活の満足度

次の項目のそれぞれについて「とてもそう思う」から「まったくそう思わない」までの5段階のうち、あなたの気持ちにもっとも近いものを選んでください。

【図30 生活の満足度】

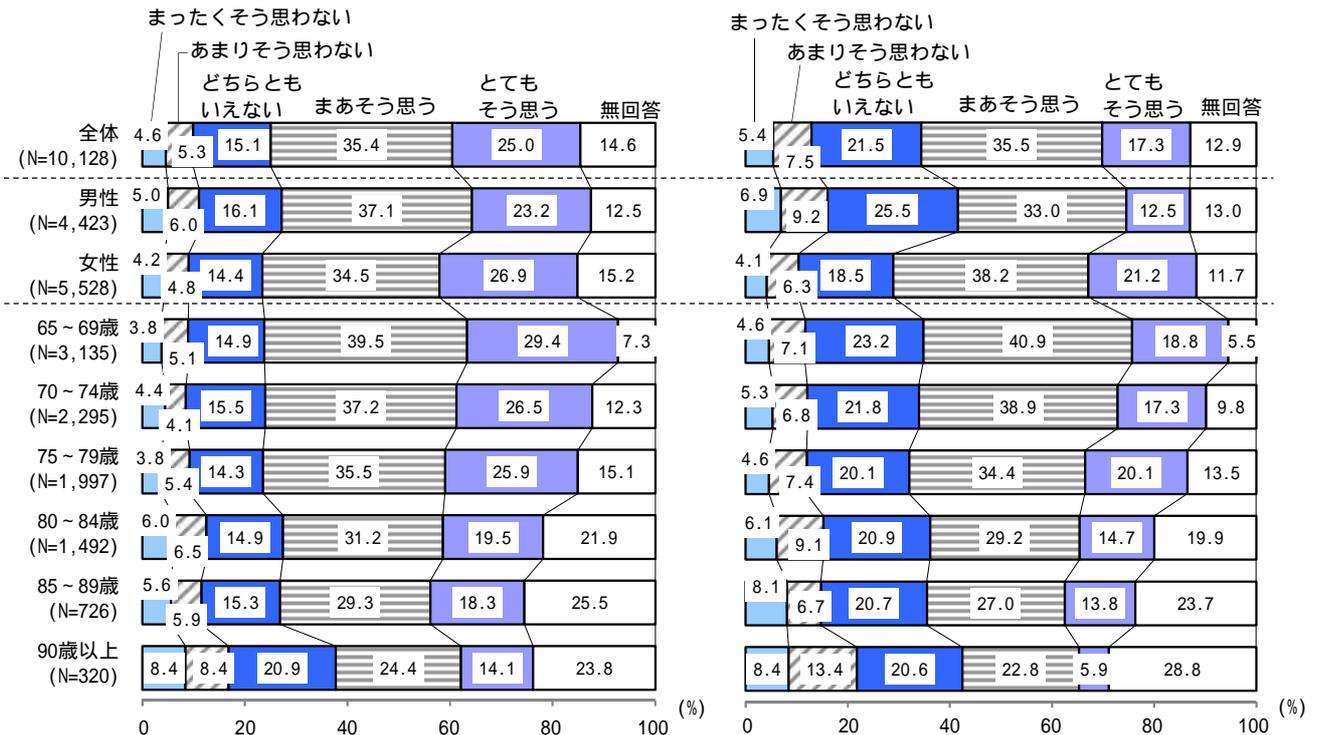
(1) 今の暮らしには張り合いがある

(2) 生活は充実している



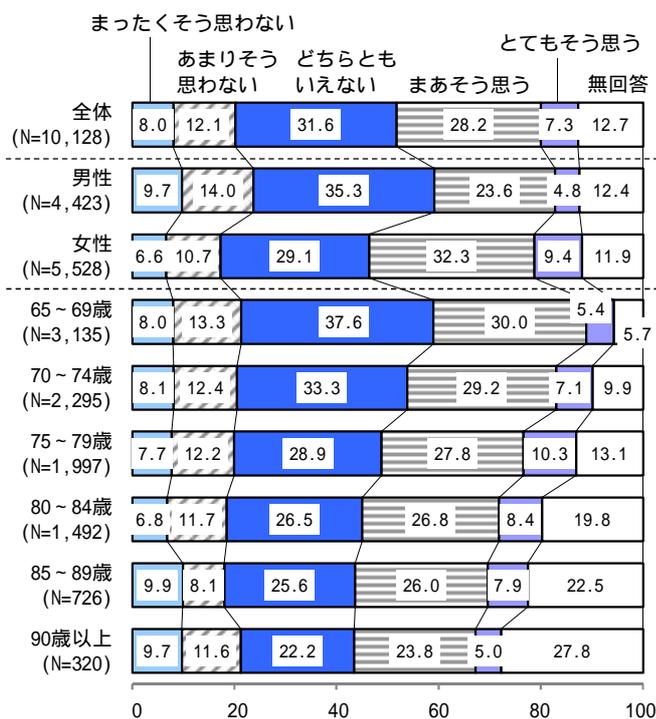
(3) 趣味をしている時間は楽しい

(4) 友人との関係に満足している

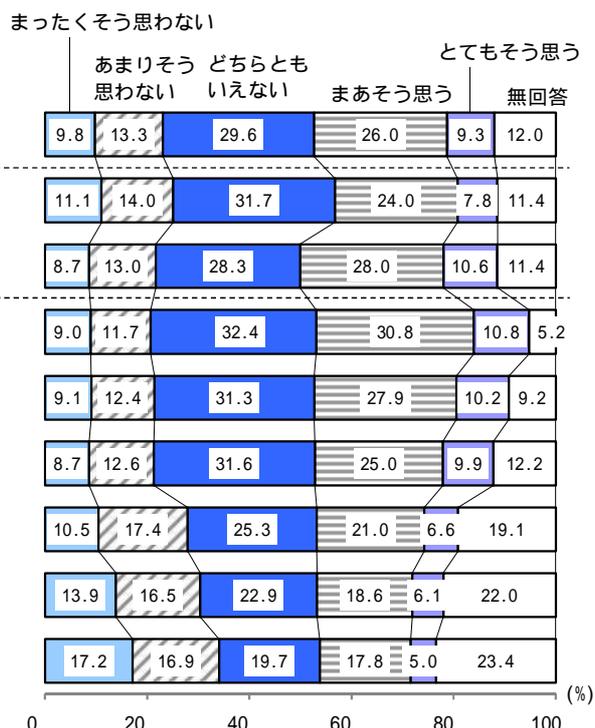


【図30 生活の満足度】

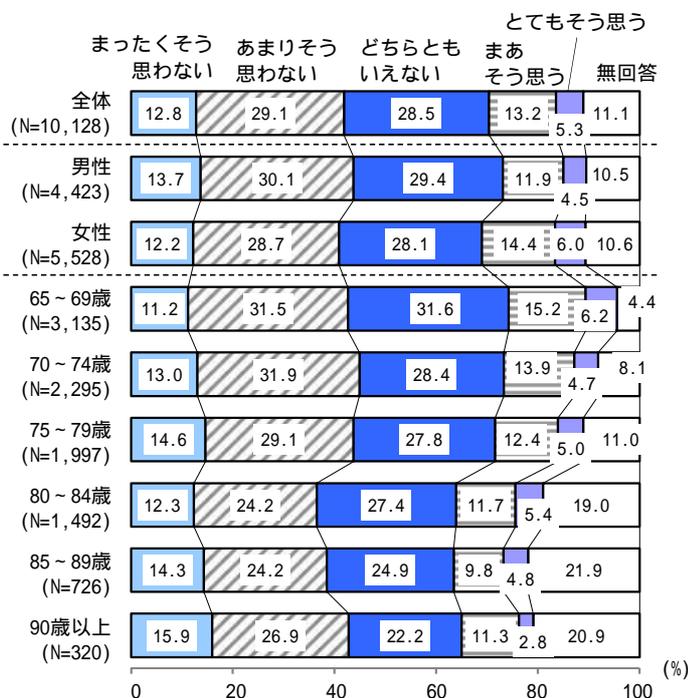
(5) 近所付き合いに満足している



(6) 自分は頼りにされていると思う



(7) 今の暮らしにはストレスが多い



生活の満足度については、「まあそう思う」と「とてもそう思う」をあわせた『そう思う』との回答は、“(1)今の暮らしには張り合いがある”、“(2)生活は充実している”、“(3)趣味をしている時間は楽しい”、“(4)友人との関係に満足している”では5割以上となっている。“(5)近所付き合いに満足している”と“(6)自分は頼りにされていると思う”では3割台となっている。“(7)今の暮らしにはストレスが多い”では「まったくそう思わない」と「あまりそう思わない」をあわせた『そう思わない(ストレスが多くない)』41.9%となっている。

性別で見ると、『そう思う』との回答は、いずれの項目においても男性より女性の方が高くなっている。

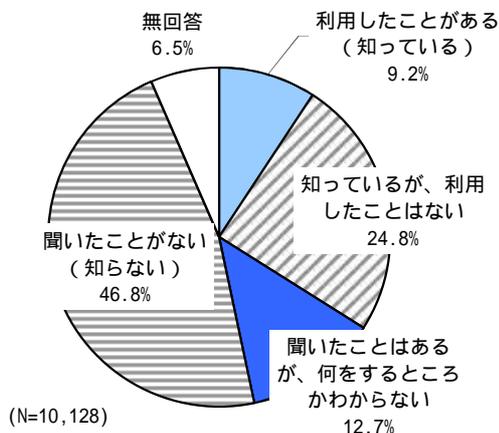
年齢別で見ると、『そう思う』との回答は、いずれの項目においても高齢になるほど低くなっている。(図30)

(7) 地域生活支援

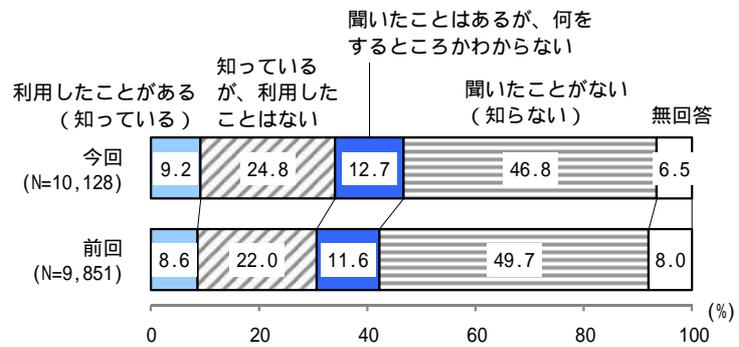
問31 地域包括支援センター等の利用・認知状況

あなたは、地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）を利用したことがありますか。（はひとつ）

【図31 地域包括支援センター等の利用・認知状況】



【図31-1 地域包括支援センター等の利用・認知状況（比較）】

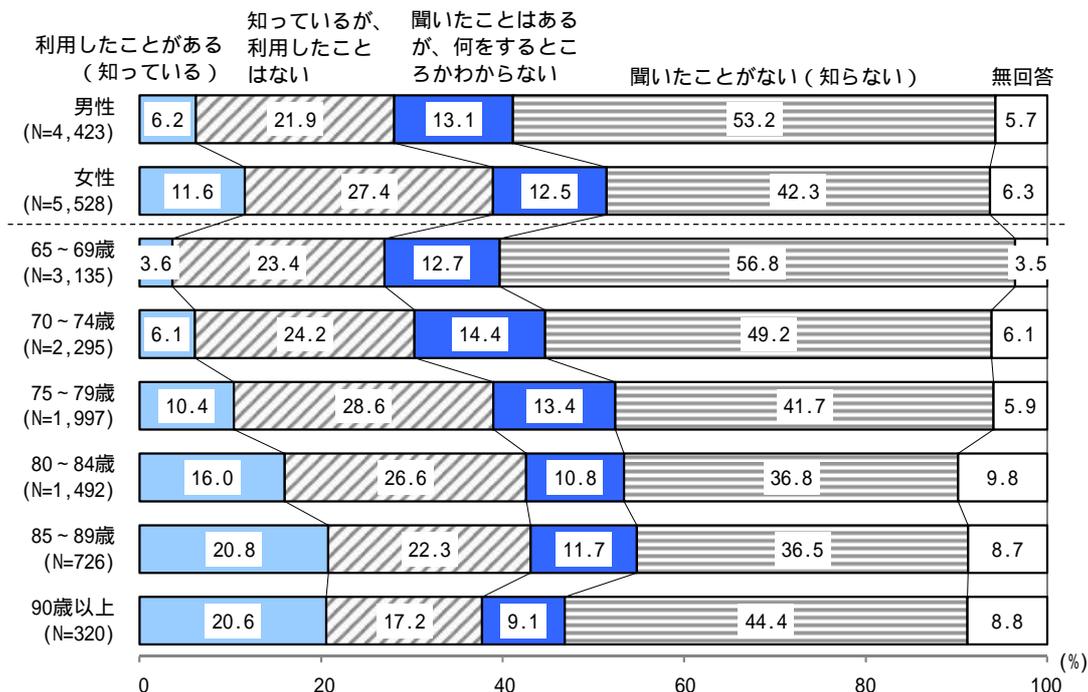


地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）については、「利用したことがある（知っている）」（9.2%）と「知っているが、利用したことはない」（24.8%）をあわせた『知っている』が34.0%となっており、前回より3.4ポイント高くなっている。また、「聞いたことがない（知らない）」との回答割合は46.8%であり、前回と比べ2.9ポイント減少している。（図31、31-1）

性別で見ると、利用の有無にかかわらず『知っている』の回答割合は女性の方が高く、「知らない」との回答は、男性の方が高くなっている。

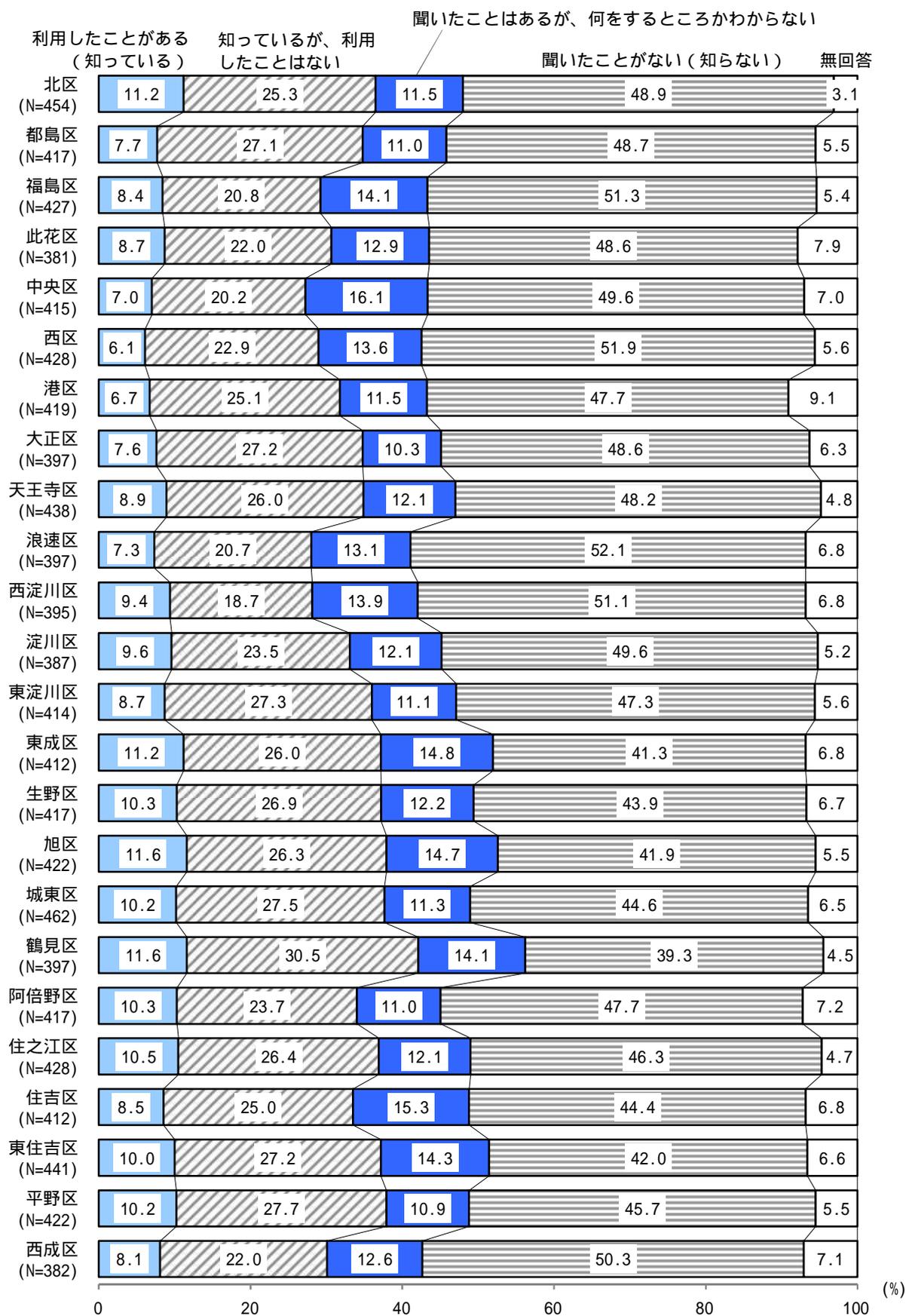
年齢別では、概ね高齢になるほど『知っている』が高くなり、85歳以上は20%を超えている。（図31-a）

【図31-a 地域包括支援センター等の利用・認知状況（性別・年齢別）】



居住区別でみると、『知っている』の回答割合は鶴見区が42.1%で最も高く、「聞いたことがない(知らない)」は浪速区が52.1%で最も高くなっている。(図31-b)

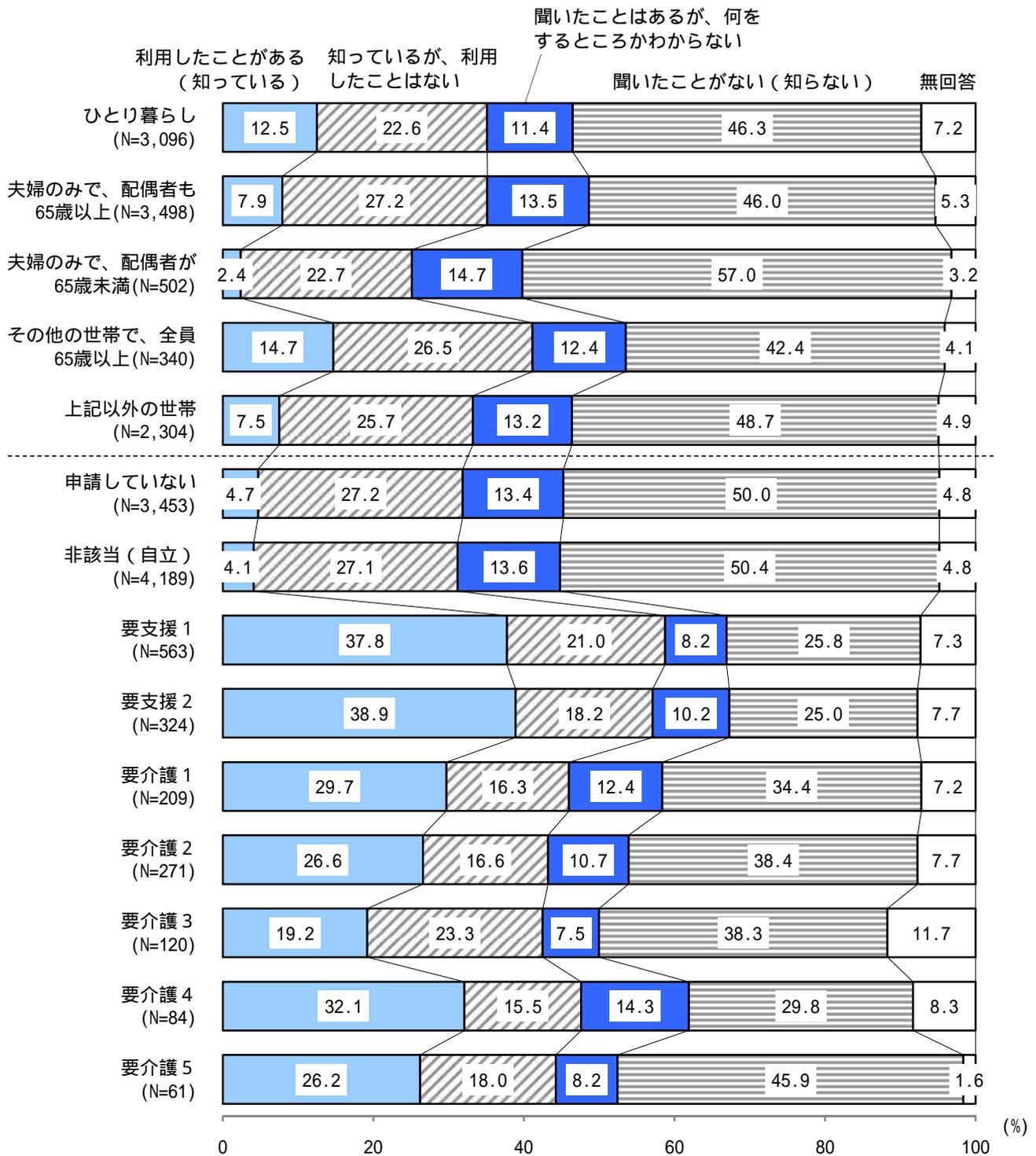
【図31-b 地域包括支援センター等の利用・認知状況(居住区別)】



世帯状況別で見ると、『知っている』との回答割合は“その他の世帯で、全員65歳以上”が41.2%で最も高く、「聞いたことがない(知らない)」は“夫婦のみで、配偶者が65歳未満”が57.0%で最も高くなっている。

介護度別で見ると、『知っている』との回答割合は要支援1が58.8%、要支援2が57.1%と高く、申請していない、非該当(自立)では「聞いたことがない(知らない)」は5割となっている。(図31-c)

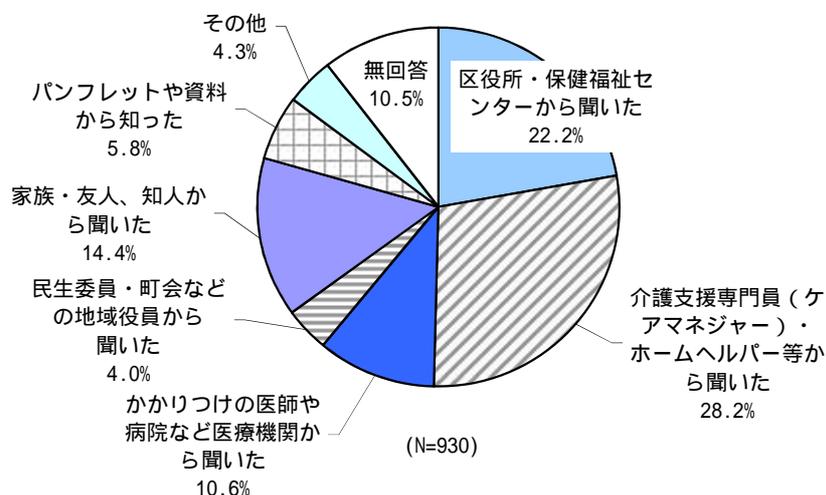
【図31-c 地域包括支援センター等の利用・認知状況(世帯状況別・介護度別)】



問31-1 地域包括支援センター等を知ったきっかけ

【問31で「1 利用したことがある(知っている)」と回答された方におうかがいします。】
 あなたは、地域包括支援センターまたは総合相談窓口(ブランチ)をどのようにして知りましたか。主なものをひとつ選んでお答えください。(はひとつ)

【図31-1 地域包括支援センター等を知ったきっかけ】

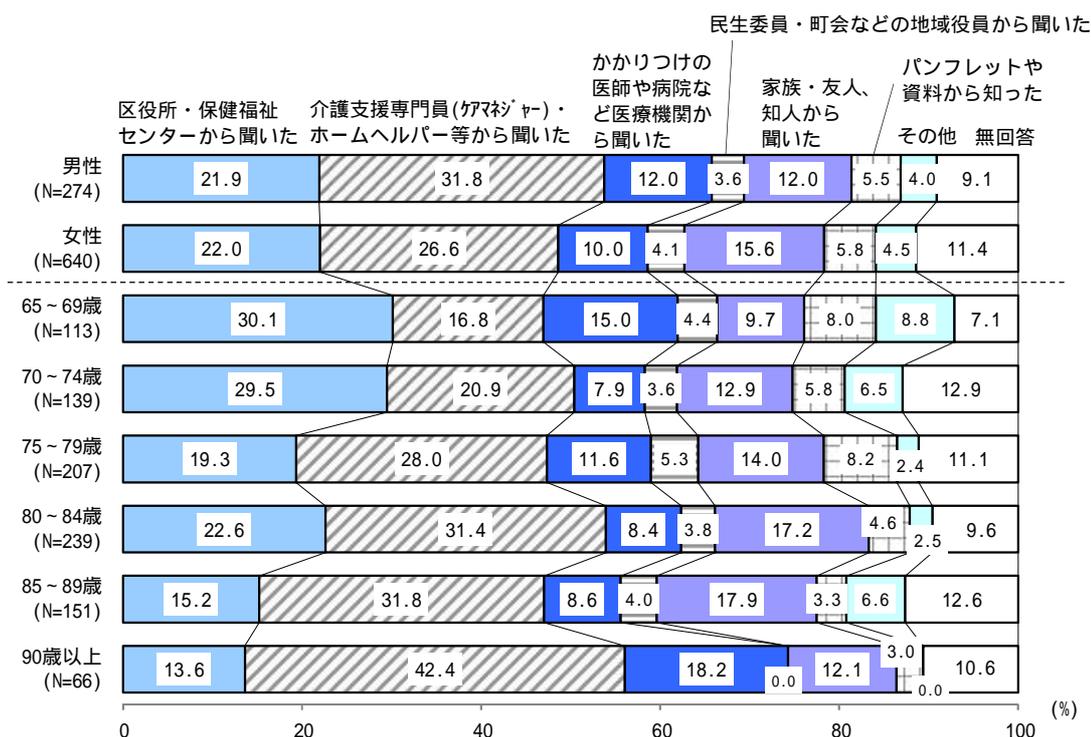


利用したことがある人に知ったきっかけをたずねると、「介護支援専門員(ケアマネジャー)・ホームヘルパー等から聞いた」が28.2%で最も多く、次いで「区役所・保健福祉センターから聞いた」(22.2%)、「家族・友人、知人から聞いた」(14.4%)となっている。(図31-1)

性別でみると、「介護支援専門員(ケアマネジャー)・ホームヘルパー等から聞いた」の回答割合は男性の方が高くなっている。

年齢別でみると、「介護支援専門員(ケアマネジャー)・ホームヘルパー等から聞いた」の回答割合は高齢になるほど高くなっている。(図31-1-a)

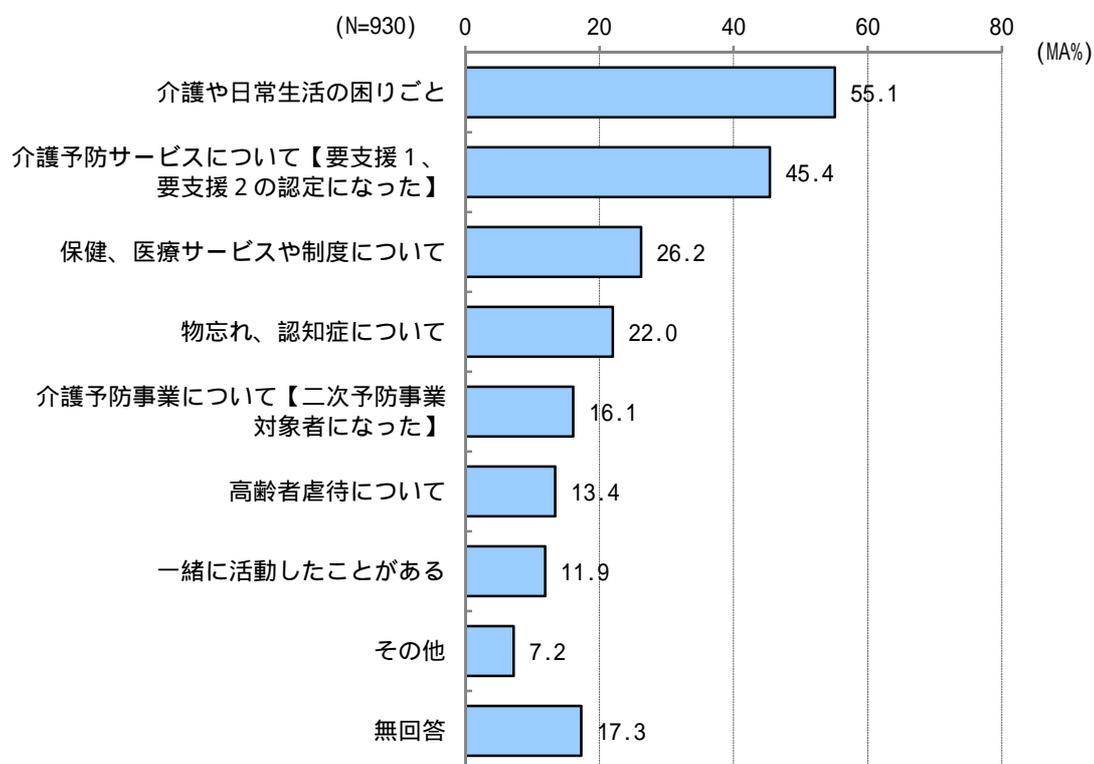
【図31-1-a 地域包括支援センター等を知ったきっかけ(性別・年齢別)】



問31-2 地域包括支援センター等を利用された目的

【問31で「1 利用したことがある(知っている)」と回答された方におうかがいします。】
 あなたが、地域包括支援センターまたは総合相談窓口(ブランチ)を利用(相談)された目的
 について、お答えください。(はいくつでも)

【図31-2 地域包括支援センター等を利用された目的】

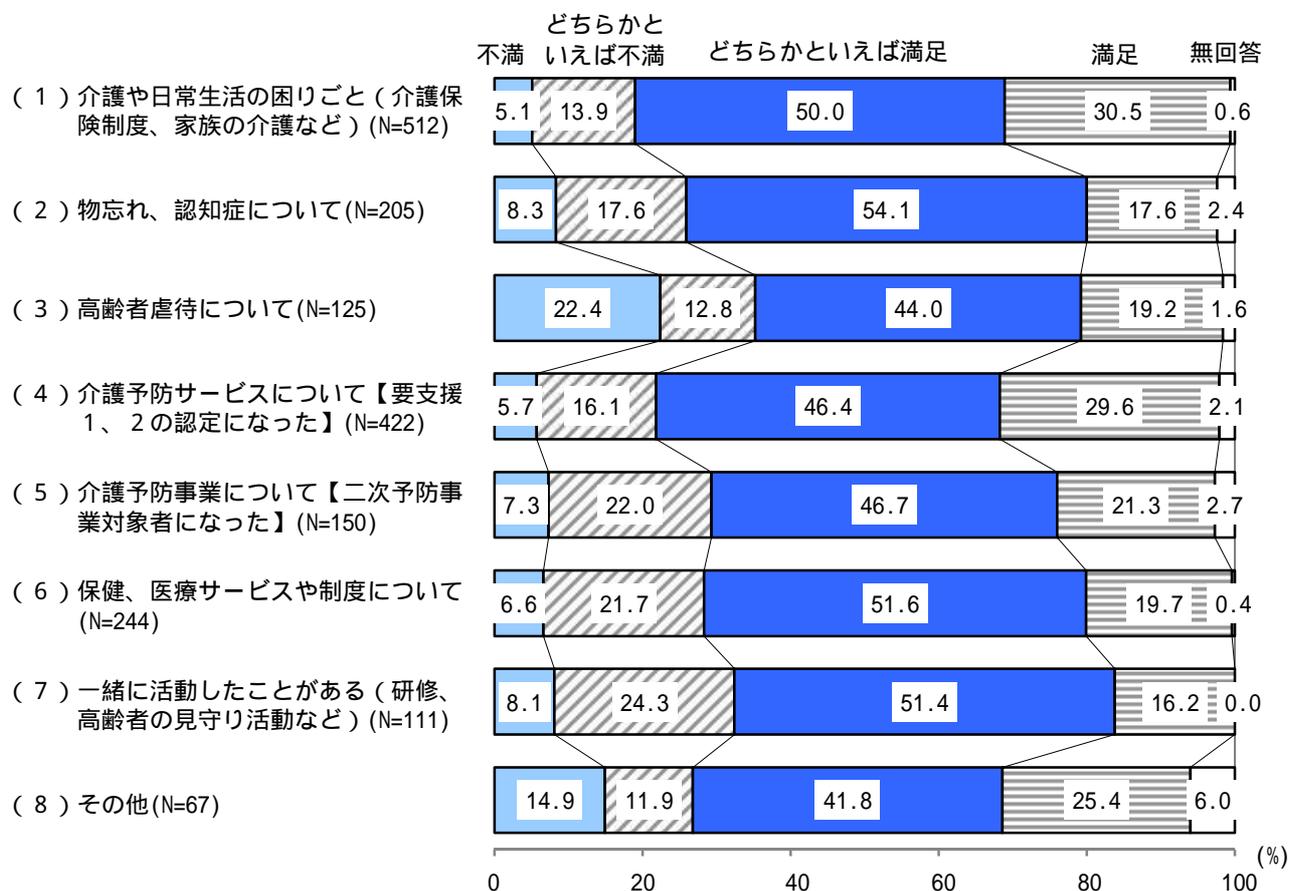


利用したことがある人に、利用目的をたずねると、「介護や日常生活の困りごと」が55.1%で最も多く、次いで「介護予防サービスについて」(45.4%)、「保健、医療サービスや制度について」(26.2%)となっている。(図31-2)

問31-3 地域包括支援センター等を利用した際の満足度

利用（相談）された時の満足度（対応や相談結果など総合的に）についてお答えください。（右側の満足度欄の「1～4」にそれぞれはひとつ）

【図31-3 地域包括支援センター等を利用した際の満足度】

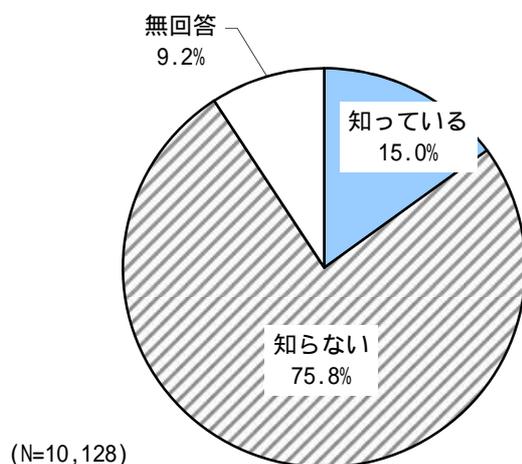


利用したことがある人に、各利用目的ごとに利用時の満足度をたずねると、“(1)介護や日常生活の困りごと”(80.5%)、「(4)介護予防サービスについて”(76.0%)の対応についての『満足度』(「どちらかといえは満足」と「満足」をあわせた割合)が高くなっている。(図31-3)

問32 高齢者虐待の通報先・相談先の認知度

あなたは、あなた又はあなたの周囲の高齢者が身近な人からの暴力や暴言、身体拘束や閉じ込め、介護や世話の放棄、年金の使い込みといった「高齢者虐待」を受けた場合の通報・相談先をご存じですか。(はひとつ)

【図32 高齢者虐待の通報先・相談先の認知度】

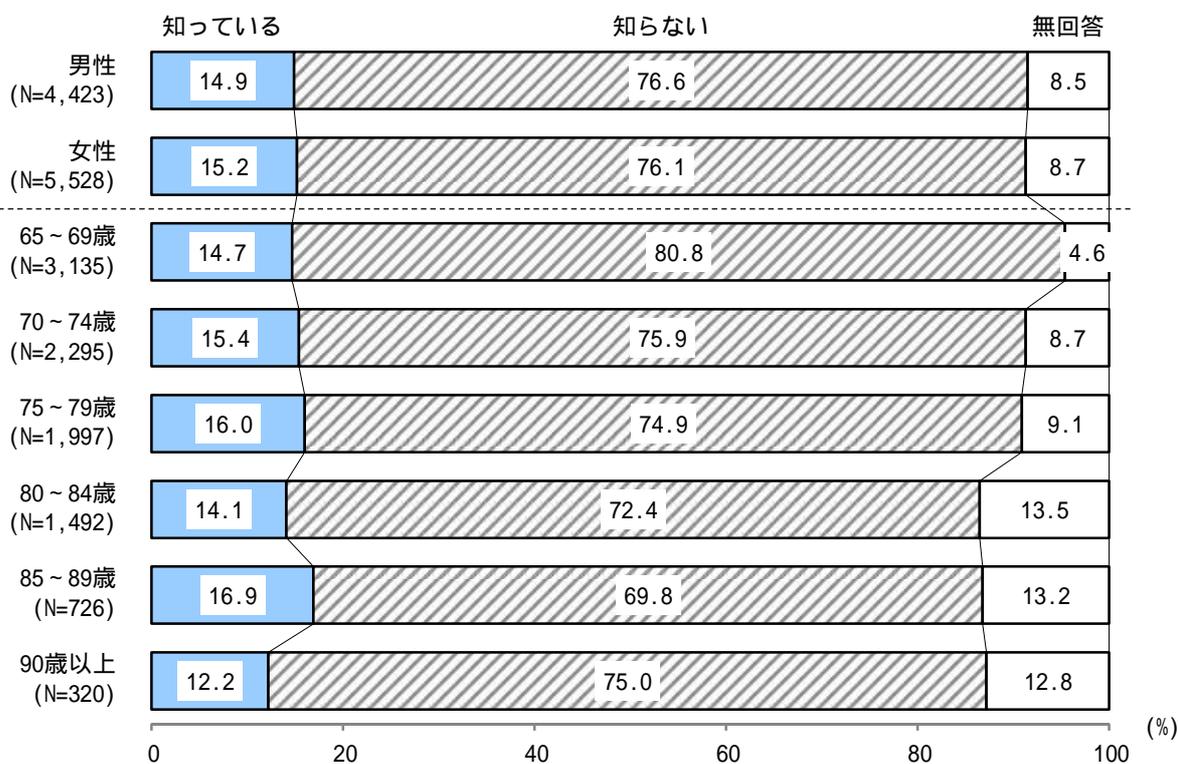


高齢者虐待を受けた場合の通報・相談先については、「知らない」との回答が75.8%で高い割合となっている。(図32)

性別でみると、男女とも同様の傾向であり、大きな差はみられない。

年齢別でも同様の傾向であるが、65～69歳では「知らない」の回答割合が80.8%で70歳以上の年齢に比べてやや高くなっている。(図32-a)

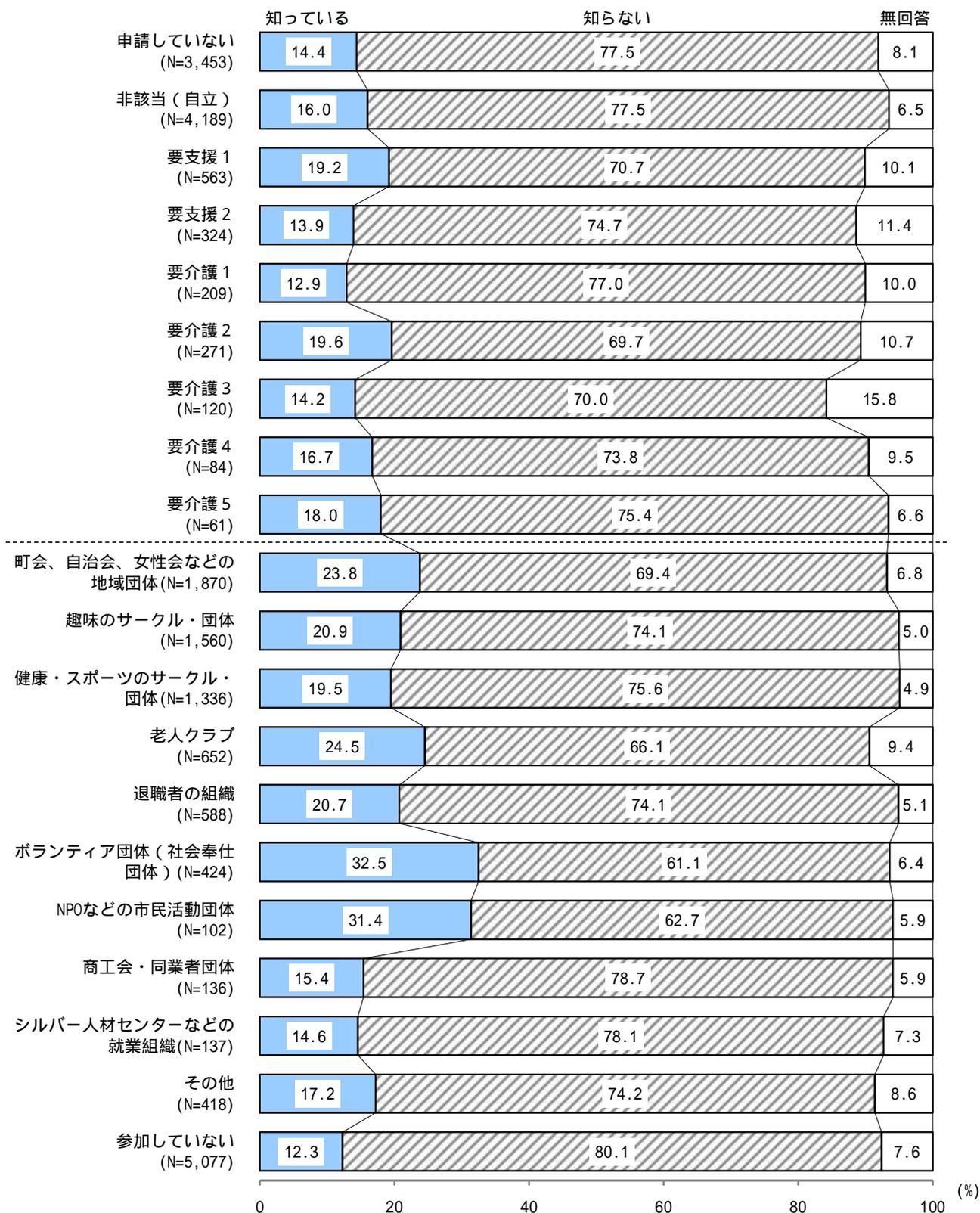
【図32-a 高齢者虐待の通報先・相談先の認知度(性別・年齢別)】



介護度別でみると、「知っている」の回答割合は要介護2が19.6%で最も高く、次いで要支援1（19.2%）となっている。

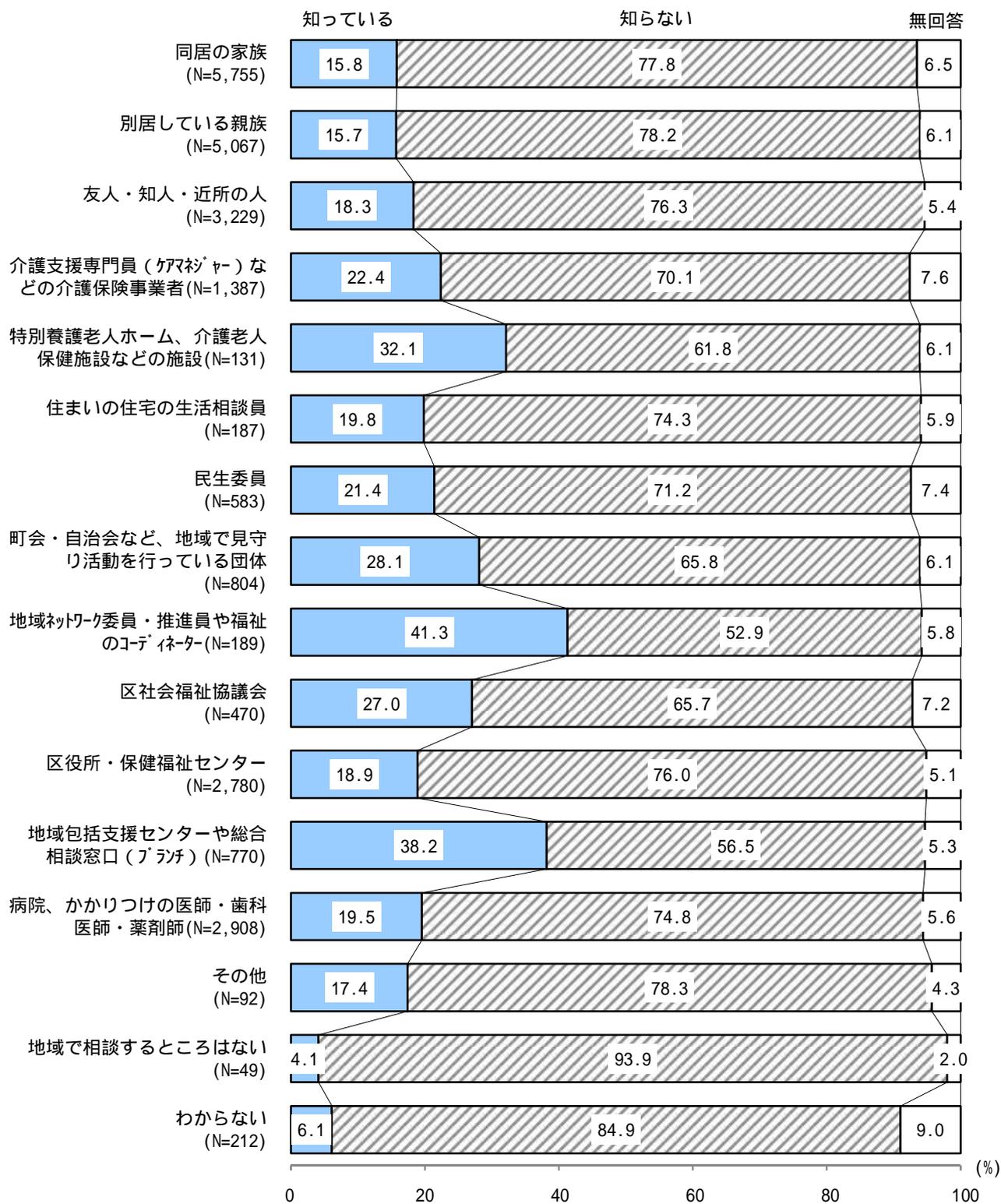
継続的に参加している団体や集まり別でみると、「知っている」の回答割合は“ボランティア団体（社会奉仕団体）”（32.5%）と“NPOなどの市民活動団体”（31.4%）で3割を超えている。（図32-b）

【図32-b 高齢者虐待の通報先・相談先の認知度（介護度別・継続的に参加している団体や集まり別）】



困った時の相談相手別でみると、「知っている」の回答割合は“地域ネットワーク委員・推進員や福祉のコーディネーター”が41.3%で最も高く、次いで“地域包括支援センターや総合相談窓口（プランチ）”(38.2%)となっている。一方、「知らない」は“地域で相談するところはない”が93.9%で最も高くなっている。(図32-c)

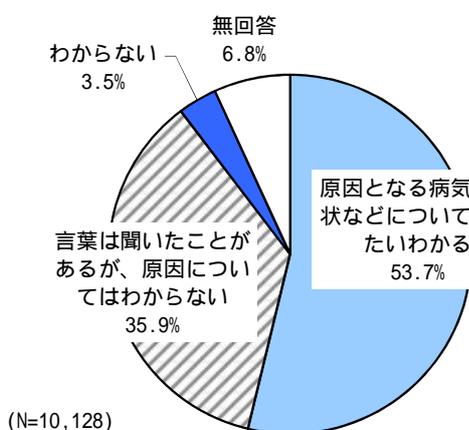
【図32-c 高齢者虐待の通報先・相談先の認知度（困ったときの相談相手別）】



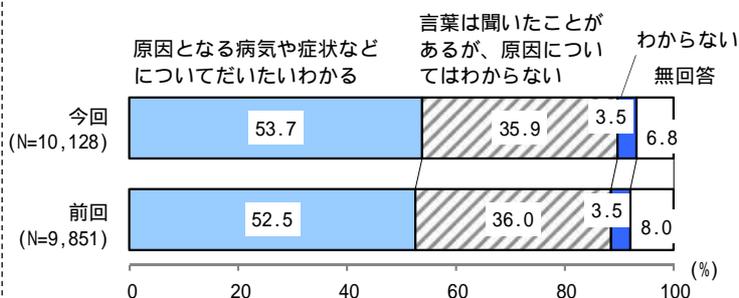
問33 認知症という病気の認知度

あなたは「認知症」という病気を知っていますか。(はひとつ)

【図33 認知症という病気の認知度】



【図33-1 認知症という病気の認知度(比較)】



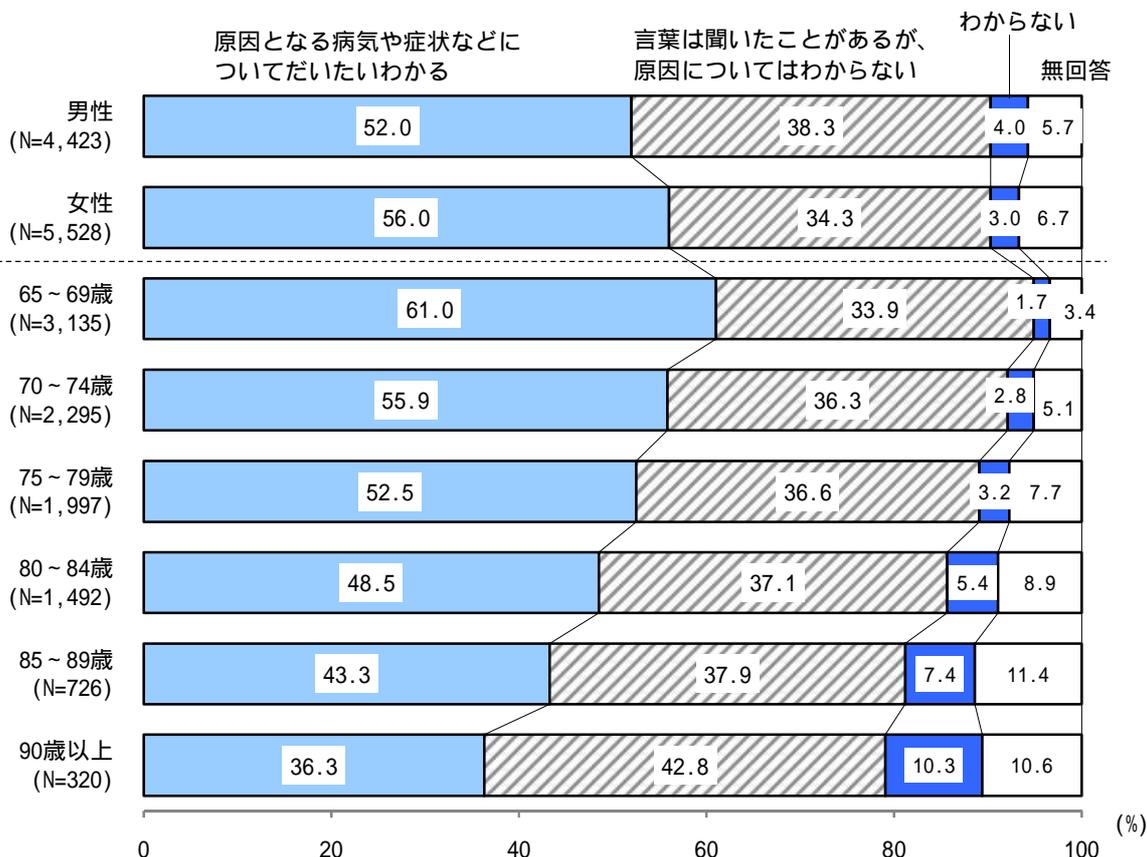
認知症という病気の認知度については、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」が53.7%で最も多くなっている。(図33)

前回調査と比較すると、同様の傾向であり、大きな差はみられない。(図33-1)

性別でみると、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」の回答割合は女性の方が高くなっている。

年齢別でみると、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」の回答割合は高齢になるほど低くなっている。(図33-a)

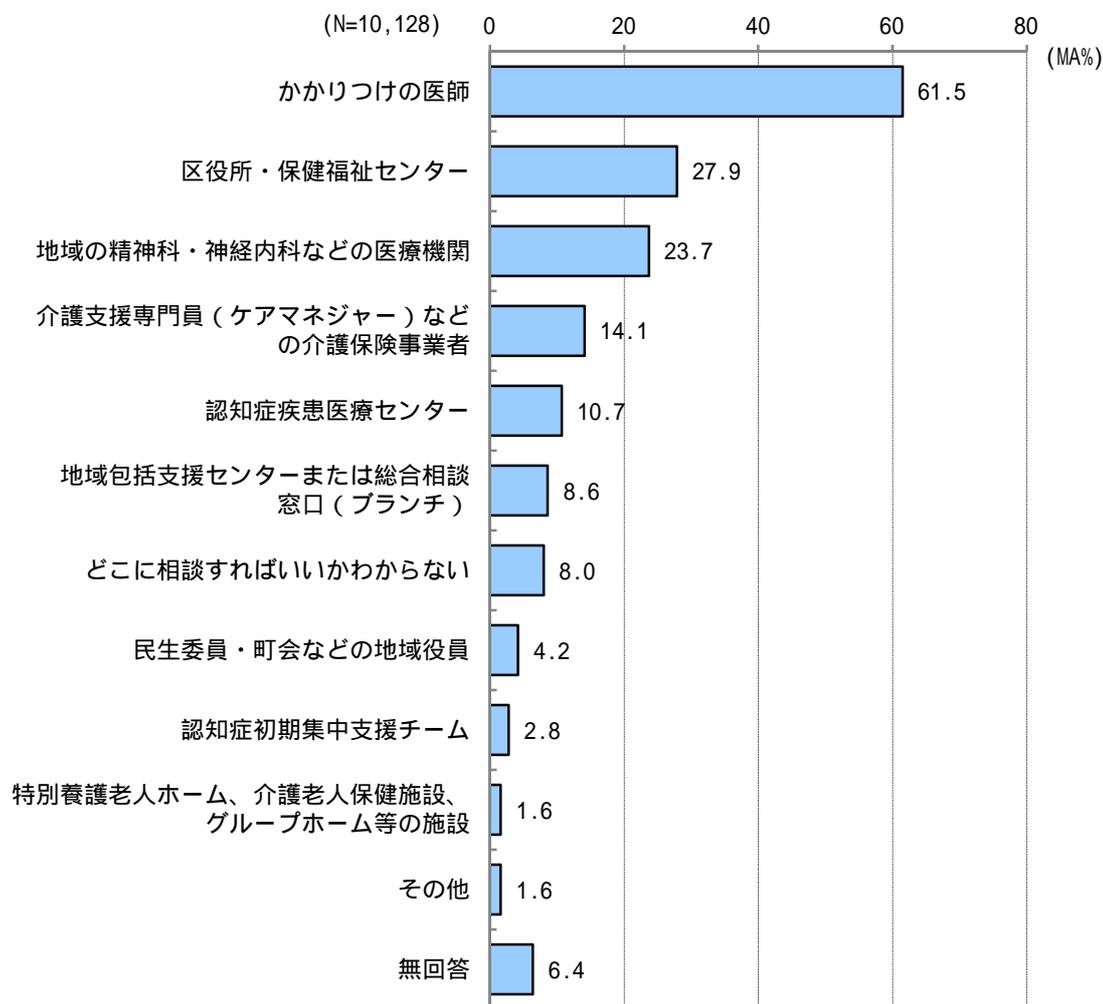
【図33-a 認知症という病気の認知度(性別・年齢別)】



問34 認知症を不安に感じるときの相談先

あなたは、あなた又はあなたのご家族が認知症について不安に感じるときは、どちらに相談されますか。(はいくつでも)

【図34 認知症を不安に感じるときの相談先】



認知症を不安に感じるときの相談先については、「かかりつけの医師」が61.5%で最も多く、次いで「区役所・保健福祉センター」(27.9%)、「地域の精神科・神経内科などの医療機関」(23.7%)となっている。また、「どこに相談すればいいかわからない」は8.0%となっている。(図34)

性別でみると、「かかりつけの医師」の回答割合は女性の方が高くなっており、「どこに相談すればいいかわからない」は男性の方がやや高い。

年齢別では、「かかりつけの医師」は全ての年代で最も多い。次いで「区役所・保健福祉センター」は65～84歳までの年齢で多くなっている。「かかりつけの医師」、「介護支援専門員(ケアマネジャー)などの介護保険事業者」の回答割合は高齢になるほど高くなっているが、「区役所・保健福祉センター」では高齢になるほど低くなっている。(図34-a)